

関係団体意見への検討結果

No.	本方向（案）の該当目（○改訂・○行目）	意見の内容	検討結果
1	P4 表枠内 南部総合実業高校	<p>南部総合実業高校</p> <p>1 問題点</p> <p>「農業分野と工業分野の融合」とありますが、いかにも新しいタイプの学校ができるような印象を与えていますが、現実的に下記の点で統合のメリットは少ないと思われます。</p> <p>(1) 農業高校には科目「農業機械」があり、機械の整備、溶接など基礎基本の学習が行われている（あらためて融合の必要はない）。</p> <p>(2) 学校行事が分散し、生徒の帰属意識や連帯感が薄くなり専門性の探求に対するモチベーションの低下が起きる。</p> <p>例：農業クラブ大会・・・工業は関係ないので学校行事ではなく学科行事となり、学校をあげた盛り上がり欠ける。</p> <p>(3) 管理者が多忙になり腰を据えた学校経営（生徒指導等）に支障がある。また、業務の重なりがあって何れかの業務に支障がある。</p> <p>例 宮古総合 農業関係行事（諸大会、研究会参加） 水産関係行事（ " ） 商業関係行事（ " ）</p> <p>※水産教育関係行事参加のため農業教育研究協議会理事会欠席などの事例有り。</p> <p>(4) 施設設備が狭隘し、農場面積が制限される（南農は広大ですが、多くは農場）。</p> <p>2 利点</p>	<p>【案】P5 30行</p> <p>「南部総合実業高校（仮称）については、地域関係団体等の理解を得て、専門高校の在り方等も含め次期計画で検討します。」とあり、頂戴した意見等も参考にしながら、実施計画の中で検討します。</p>

	<p>(1) 農業、工業の相互理解が深まる。</p> <p>3 意見</p> <p>農業は20Pのように学科・コースの改編（現在の南農の学科縮減が理想）により単独校が望ましい。</p> <p>農業の統合（案）を論ずるとき卒業生の就農率が問題になりますが、食品科学科や生活科学科、造園科などは食品関係、保育・福祉関係、建設業関係に就労する者も多く、就農率にはあられもないが、学科の教育目標に沿った就職者は多い。</p> <p>食料自給率の向上や食の安全、農業の六次産業化が重要視されているにもかかわらず、国の農業高校縮減は加速しており、国の将来を憂う。</p> <p>【農業の多面的機能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国土の保全（緑化、空気の浄化） 2 水源涵養 3 食料生産 4 地域文化の継承（収穫祭、生活共同体（コミュニティ）等） 5 エネルギー資源の創出（サトウキビ、トウモロコシ、ひまわり等バイオ燃料） 6 生きる力の醸成（森林浴による心の涵養、体験活動による心身のリハビリ） 	
<p>2 P5 7行～8行目 「単位制高校の～進んでいません。」</p> <p>P5 18行目 「また、与勝高校の～挙</p>	<p>単位制学校については真和志高校のみであるが、同校の導入後の結果はどうか？単位制だから入学するのではなく、受験時の偏差値で入れる学校という選択で選ばれているのではないか？という懸念がある。単位制の学校を増やすには真和志高校の検証が必要であると思われる。</p> <p>中高一貫教育として位置づけた与勝高校の進学率や進路決定率はどうか？</p>	<p>真和志高校については、単位制のよさを生かした教育活動により、中学校時に不登校だった生徒が劇的に変容し、高校を卒業した例もあります。また、全国写真甲子園や俳句甲子園で活躍した等の実績があります。</p> <p>今後は、単位制のよさを活かしさらに魅力的な学校づくりを検討します。</p>

	<p>がっています。」</p> <p>P5 26行目</p>	<p>中部には球陽高校という進学校があり、また普天間高校という伝統高も存在するなか、果たして与勝高校にその矛先が向くのか疑問である。</p> <p>※与勝の一貫教育を信じて進学したものの、中途半端で憤慨した保護者の話も聞いている。</p> <p>プランとしているいろいろな学校を作るのは結構だが、そこに進学する生徒にとっては人生一回きりの高校の選択となる事をもっと重要視する必要がある教育行政に求められる。</p> <p>沖縄インターナショナルスクールについてはオールイングリッシュで教育する事が大前提であるとする。よって、それが出来ないのであれば中途半端な学校は作るべきではないと考える。</p> <p>既にアミークスがうるま市に開校し、南部からも多数入学していること。OISTとの連携を考えると、小中はアミークスに委ね、その後の進学先として、外国への大学進学を念頭においた高校の設立が賢明だと思われる。</p>	<p>与勝緑が丘中学校の1期生が、現在与勝高校の2年生であるため、進学率や進路決定率等の中高一貫教育の成果等についての具体的な数値については、平成25年度以降となります。</p> <p>中高一貫教育校の形態については、これまでの中高一貫教育校の成果や課題を踏まえ、生徒・保護者のニーズや財政状況等を考慮し、既存の高等学校に中高一貫教育校の設置を検討します。【案】P15 2行目</p> <p>今後も特色ある学校づくりを進める中で、生徒・保護者・地域のニーズにあった学校づくりを進めます。</p> <p>【案】P15 6行目～</p> <p>沖縄インターナショナル中等教育学校設置については、今後のニーズを踏まえた上で設置の有無を含め、本計画で引き続き検討することとします。</p>
3	<p>P5 30行～31行 P13 ②高等学校規模の適正化 P15 総合実業高校</p>	<p>次期計画でも引き続き「4～8学級を適正規模とする」ならば、南部総合実業高等学校（仮称）の再編統合は必要と思われる。</p>	<p>【案】P5 30行</p> <p>「南部総合実業高校（仮称）については、地域関係団体等の理解を得て、専門高校の在り方等も含め次期計画で検討します。」とあり、頂戴した意見等も参考にしながら、実施計画の中で検討します。</p>
4	<p>P5 30行～31行 P13 ②高等学校規模の適正化 P15 総合実業高校</p>	<p>南部総合実業高校の設置については、次期計画で検討するとありますが、実施の方向であるならば、これまでにクラス減や学科改編等の準備を経てきた経緯を踏まえ、計画を後戻りさせるのではなく、第4期案を実施することが望ましいと考えます。</p>	<p>【案】P5 30行</p> <p>「南部総合実業高校（仮称）については、地域関係団体等の理解を得て、専門高校の在り方等も含め次期計画で検討します。」とあり、頂戴した意見等も参考にしながら、実施計画の中で検討します。</p>
5	<p>P6～P7 入試充足率と学科別進路</p>	<p>商業・水産において学科別進路の大学進学率が高いことから、高度な専門教育が展開されているものと思われるが、同時に入試充足率が</p>	<p>【案】P9 9行～14行目</p> <p>すべての生徒に、基礎・基本の定着を図ることで、さらに上級学校へ</p>

	<p>低いことを合わせて考えると「授業について行けないと判断された受験生」を不合格にしている様子も想像できる。（ただし、水産は分母が小さいため率への影響は大きい）</p> <p>このことは中学保護者が高校に「就職・進学支援充実」や「基礎・基本が確実に学べる」を期待している（p 10）ことに対し門前払いしていることになる。その背景には、大学（特に国公立）進学者増に特化した数値目標を設定する校長がいる一方で、入学後の緩すぎる「進級規程」により学習意欲の低下した生徒への対応に無力感・閉塞感をおぼえている学校現場の苦悩が見てとれる。</p> <p>生徒に高校生活に満足してもらうために「学校が生徒の興味・関心、能力・適性について充分把握し、その多様なニーズに応える」ことが大切であれば、国公立進学に偏った価値観を学校や教育行政が押し付けることの無いようにしなければならないし、県民が「しっかりと学力を身につけた人材の育成」や「豊かな心をはぐくむ教育」を望む（p 11）のであれば、各学校に合った学習段階の設定（進級に関する教務規程）を設ける必要がある。</p>	<p>の進学に必要な教育を求める者、就職等に必要な専門教育を求める者、多様な学習スタイルや学び直しを必要とする者に十分対応できる教育環境を整備することが求められます。</p> <p>また、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力や態度の育成と、専門的な知識・技能を身につけることといった多様な希望にも応えるために、キャリア教育・職業教育の展開を図り、多様な進路実現が可能になる高校づくりを進めることが必要になります。</p> <p>ご意見を参考にしながら、個別具体的な計画は実施計画策定で検討します。</p> <p>高校に入学した生徒一人一人の学ぶ機会を保障し、高校を卒業させ、自分の人生に夢や希望を持って、たくましく生きることを支援することは重要なことだと考えております。</p> <p>県立高等学校における進級に関する規定については、多様な生徒の個性の伸長や学ぶ意欲の向上、学習環境を保障するという教育的配慮から行うものであります。また、生徒の身分や権利及び将来の人生設計に大きな影響を及ぼすものであることから、慎重に検討していく必要があります。</p> <p>県教育委員会としましては、今後とも学校や関係団体等と進級に関する現状や課題について、情報交換を行うとともに、学習指導要領の改訂や授業料無償化等状況の変化を踏まえ、生徒の「生きる力」の育成を目指し、総合的な観点から研究を進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>6 P9 4 魅力ある新しい学校づくり（再編整備の必要性） 本文下から3行目 「また、離島や～なりません。」</p>	<p>離島・北部に在住する者としてこの3行の視点は大切だと思う、是非その主旨を生かしてほしい。可能であればあと一歩踏み込んで、県レベルでの過疎化対策、地域格差の是正の観点からも離島・北部の学</p>	<p>【案】P9 19行～ 離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであり、高校生が存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規</p>

		校に対しては特色ある学校作りを積極的に支援する立場も記してもらえたらなお良いと考える。	模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。 その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。
7	P9 4 魅力ある新しい学校づくり（再編整備の必要性） 本文下から3行目 「また、離島や～なりません。」	すべての高校において、多かれ少なかれここで述べられている様々な教育を求める、あるいは必要とする生徒のすべてに対応していかなければならないのが現状だと思います。 特に進学先の限られている離島の学校ではそのことは顕著です。そのため「離島や北部等については、～特色ある学校づくりに取り組む必要がある」とあり、行政と現場のコミュニケーションを密にし、その支援を手厚くする事が必要だと思います。	【案】P9 19行～ 離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。 その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。
8	P9 4 魅力ある新しい学校づくり（再編整備の必要性） 本文下から3行目 「また、離島や～なりません。」	また、離島や北部等については、高等学校が地域の文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多い為、小規模校であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携しながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。 の部分については、おおいに賛同致します。	【案】P9 19行～ 離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。 その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。
9	P9 4 魅力ある新しい学校づくり（再編整備の必要性）		

	本文下から3行目 「また、離島や～なりません。」	地域の学校として小規模であっても是非必要である。また、教育の平等性、保護者の負担からしても善処してほしい。	【案】P9 19行～ 離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。 その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。
10	P10 ※次期高等学校編成整備計画に係るアンケート調査結果について 3行目 11行目 17行目	「子どもの通う学校にもっとも望みたいこと」質問した回答については ↓ 「子どもの学校にもっとも望みたいこと」の質問への回答については 上に同じ 上に同じ	指摘のとおり【案】の文章を修正します。
11	P11 円グラフ これからの高校の方向性	質問事項の「これからの高校の方向性」（県民）の回答では、学科が普通科と総合学科のみしか回答がないが、もう一つの大きな学科である専門学科は、その他の回答である1.3%がそれに該当するのでしょうか。学び直しや単位制などは、通信制や定時制だと認識してよいでしょうか。 県民・保護者・中学生のアンケートに基づいたデータも大切です。そのデータからすると、普通科や総合学校の志向がみられます。 そのことから専門高校の存続が危惧されます。「学んで良かった教科」「役に立つ教科」の視点から考えると、専門高校の意義は大きい。今後の高校教育において、これからの沖縄県の方向性を見据え、育てたい人材・必要な人材という観点から、「着眼大局」で策定して	このアンケートの回答項目として、以下の5点を挙げてあります。 1 単位制のように多様な選択科目の開設できる学校 2 総合学科のように学習希望や進路希望に対応した学校 3 普通科におけるコースの充実・改善 4 学び直しができる学校 5 その他 専門高校に特化した回答項目は設定しておりません。 その他1.3%の回答内容については、 ・部活に対して指導が少ない。本格的な指導を外部から多く取り入れるべき。 ・専門学校のように社会に直結した学問を教える学校。 ・校区制を復活させて地域密着型にし、通学に負担がかからないよう

		<p>いただきたいと思います。</p>	<p>にし高校まで義務教育にして欲しい。子どもは家庭環境を選べないので学ぶ機会を与えて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科は普通科に専念し、商工業のようなコース制導入は間違いである。 <p>等の意見となっております。</p>
12	P12 ①進学率の設定	<p>「進学率の設定」となっているが、本文では「進学率の向上を図る」となっていて、具体的な設定目標が明確でない。設定しないのであれば、タイトルを変えた方が良くはないか。</p>	<p>【案】P9 4 魅力ある新しい学校づくり において 9行目～</p> <p>すべての生徒に、基礎・基本の定着を図ることで、さらに上級学校への進学に必要な教育を求める者、就職等に必要な専門教育を求める者、多様な学習スタイルや学び直しを必要とする者に十分対応できる教育環境を整備することが求められます。</p> <p>とあり、上記条件を満たす学校が増えれば進学率は向上すると考えます。</p>
13	P12 ①進学率の設定	<p>「魅力ある学校づくりを進めていく中で進学率向上を図ります。」という表現は、項目名「①進学率の設定」が副次的な位置づけと解される。</p> <p>魅力ある学校づくりイコール進学率の向上ではないと思う。</p> <p>ここでは、あくまでも進学率を設定する意義づけの表現にした方がよいと思います。</p>	<p>【案】P9 4 魅力ある新しい学校づくり において 9行目～</p> <p>すべての生徒に、基礎・基本の定着を図ることで、さらに上級学校への進学に必要な教育を求める者、就職等に必要な専門教育を求める者、多様な学習スタイルや学び直しを必要とする者に十分対応できる教育環境を整備することが求められます。</p> <p>とあり、上記条件を満たす学校が増えれば進学率は向上すると考えます。</p>
14	P13 ②高等学校規模の適正化	<p>学校規模の適正化に当たっては、生徒数が多い地区では推進していく必要があると思います。</p> <p>離島。北部の小規模校については、地域の活力への影響等も考慮しながら慎重に検討すべきだと思います。</p> <p>13頁14～16行目に記載されているねらいの達成には、授業等の平素の教育活動内容の充実を図ることによって可能なことも多々あると考</p>	<p>【案】P9 19行～</p> <p>離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。</p> <p>その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校につい</p>

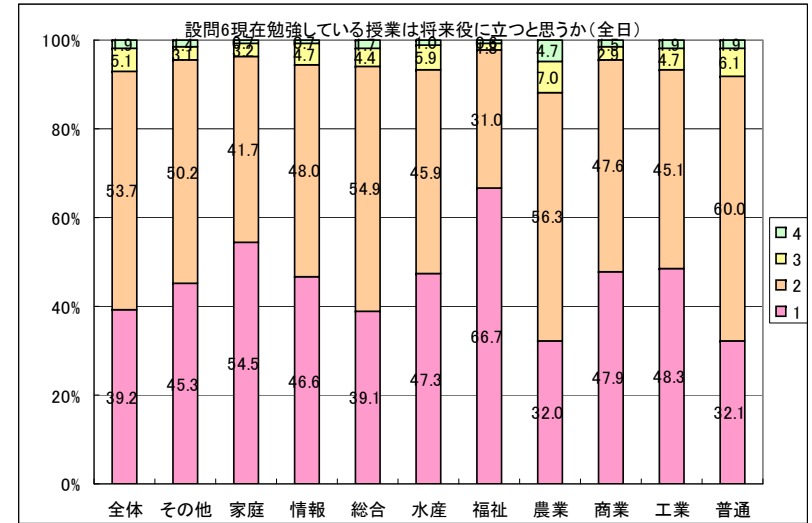
		えられる。 学校規模の適正については、教育内容や生徒の実態、地域の実態に応じて検討されるべきものだと考えます。はじめに学級数ありきではないと思います。	ては、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。
15	P13 ②高等学校規模の適正化 4行～5行目 「適正規模～していません。」	指標として4～8学級が適正規模だろうとは思いますが、離島北部においては配慮があることを前提として考えています。	【案】P9 19行～ 離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。 その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。
16	P13 12～13行目 「地域の～展開していません。」	地域の行事等に於いて連携を図りやすい等の利点もあり、小規模を活かした特色ある教育活動を展開しています。 の部分でも本村にある北山高等学校は地域行事の協力体制や地域とのつながりが強く地域にとっても無くては成らない学校である。 例えば、地域行事の補助員や吹奏楽部員による各種行事の協力、小中学生を対象としたロボコン教室(講習会)の実施、北山グスク祭りや史劇「北山の風」の積極的参加など双方向での連携等、地域の学校という想いは大きい。 しかし、一学年3学級の小規模校である北山高等学校も統廃合の可能性があり、村民・保護者・児童生徒の危機感は大きいですが、それを上回る地域や同窓会、各団体からの支援体制は充実している。	【案】P9 19行～ 離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。 その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。
17	P13 ②高等学校規模の適正化 P14 ④募集停止及び学校の統廃合	連携型中高一貫教育校について学校の再編統合の際、次のことに配慮してほしい。 1 生徒減少に伴う各地域の中学校の統廃合 2 離島における通学等にかかる経済的負担	【案】P9 19行～ 離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある

	⑦高等学校（学科）の適正な配置	3 中高一貫教育の主旨の再確認 4 交通体系整備と各産業との連携	学校づくりに取り組むことが必要になります。 その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。
18	P13 ②高等学校規模の適正化	本校は、大規模校（学年10学級）の一つである。適正規模が8学級までとなっているが、本校の特色化を推進する意味や経営をやりやすくする意味では9学級に落ち着かせてもよいと考える。 特に人気のある大規模校の学級数を減にして、小規模校に割り振ることは、県の高校教育全体から見ると、学校の活性化の観点から意義のあることと考える。	都市部では、志願者が多く集まり特定の学校が過大規模校となっています。 また、ニーズの高いそれらの過大規模校に隣接する学校では志願者が大幅に定員を下回る状況も見られます。 このような課題を改善するため、隣接校の魅力ある学校づくりの努力はもとより、過大規模校の学級減の検討も必要であると考えます。
19	P13 ②高等学校規模の適正化 17行目 「一定規模以上の～必要です。」	一定規模以上の学校である ↓ 適正規模である にしたほうがよい（一定規模以上となると8クラス以上もあるから）	指摘のとおり修正します。
20	P5 30行～31行 P13 ②高等学校規模の適正化 P15 総合実業高校	次期計画でも引き続き「4～8学級を適正規模とする」ならば、南部総合実業高等学校（仮称）の再編統合は必要と思われる。	【案】 P5 30行 「南部総合実業高校（仮称）については、地域関係団体等の理解を得て、専門高校の在り方等も含め次期計画で検討します。」とあり、頂戴した意見等も参考にしながら、実施計画の中で検討します。
21	P14 ③各学科の定員の割合 1行目～4行目	「普通：専門：総合＝6：3：1としてきましたが、中学生の意向調査の結果を踏まえるとその割合は妥当であると考えます。」の部分。 p 6の〔平成22年度入試充足率〕で、特に専門学科の充足率が普通科や総合学科に比較し低いこととp 11のグラフ「設問1現在の高校生活に満足しているか（全日）」で専門学科で「満足していない」	アンケートの設問については、既存の学科の割合を提供したものではありません。 併せて「現在勉強している授業は自分の将来に役に立つと思うか」の設問では「十分役に立つ」と回答した普通科の生徒は32.1%であり、専門学科よりも大きく低い回答となっています。 このことから総合的に検討する必要があると考えます。

が高いこと、また、p 11 のもう一つのグラフ「設問1現在の高校生に満足か（定時）」で普通科に比較し農業科、商業科、工業科の満足度が低いことから中学生や高校生の専門学科への需要は現状の「普通：専門：総合＝6：3：1」より低い。このことから専門学科は不本意入学者が多いと考えることが妥当である。

「中学生の意向調査の結果」は現状の「普通：専門：総合＝6：3：1」を反映したものである。例えば総合学科が無ければそこを希望する生徒はいない。実際、他の都道府県では普通科の割合が本県より高いことから、普通科への中学生の進学希望者は高いと思う。なぜかならば、人は与えられた現実から選択するからである。

以上のことから、本県では生徒の実態と高校教育の準義務化に鑑み、専門学科を普通科に近づけることを模索する時期に来ていると思う。



他県の状況も、平均すると「普通：専門：総合＝6：3：1」の割合ですが、地方によってその割合は特徴的であり、一概に本県に当てはまるとは考えておりません。

22 P14
③各学科の定員の割合
8行目～12行目
「反面、～求められません。」

反面著しくニーズが低い
(反面) の文字を削除したほうがよい

指摘のとおり修正します。

23 P14
④募集停止及び学校の統廃合

僻地にある小規模高校は、過疎化や少子化の影響で生徒数が減少傾向にある。加えて、地元高校への入学率が低下している。入学率の低下の主な理由は、生徒の選択が多様化しているため、都市部に社会のニーズに対応した高校が増えていけばいくほど、小規模高校の定員維持は厳しい状況となっております。

しかし、経済的理由等から地元の高校を選択せざるを得ない生徒も多数おり、高校が存続できるかどうかは、地元にとっては、将来を担う人材育成、地域経済、地域活動、保護者の負担を考えれば大きな問

【案】P9 19行～
離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。

その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。

		<p>題であります。</p> <p>地元の高校及び関係機関においては、高校の存続をかけて特色づくりに血の出るような努力をしており、過疎地域における小規模高校の統廃合については、地域の実情を踏まえ、要件の緩和に特段の配慮をいただきたいと思っております。</p>	
24	P14 ④募集停止及び学校の統廃合	<p>全国的に商業の定員割れが見られるが、本県でも商業の志願倍率は悪い（特に南部商業高校）。</p> <p>しかし、編成整備計画で商業高校の再編統合の説明が不十分。</p>	個別具体的な再編統合については、実施計画策定で検討します。
25	P14 ④募集停止及び学校の統廃合	<p>伊良部高校ができる前は、伊良部島の中学校卒業者は旧平良市内で下宿しながら、宮古本島の高校に通学しており、保護者の経済的負担や精神的負担が大きかった。</p> <p>そういう状況の中で、伊良部島民が一丸となり、伊良部高校設立に向けて取り組んだ経緯がある。</p> <p>県立高等学校の編成整備にあたっては、本校が宮古高校の伊良部分校として設立され、その後伊良部高校として独立した経緯を考慮し、保護者や地域住民の意見を充分尊重して頂きますよう強く希望します。</p> <p>伊良部島で唯一の高校である伊良部高校では、小規模校の利点を活かした教育活動が進められている。生徒と職員の距離が近く、少人数クラスの中で生徒が自由に質問をしたり、放課後等に少人数での課外講座が実施されている。</p> <p>教師が授業や課外講座のみならず、課外活動等、生徒一人ひとりに十分時間をかけて対応している。また、生徒の色々な相談に親身に対応できる利点がある。</p> <p>伊良部島の若者は高校卒業後ほとんどが島を離れる。島民はせめて高校までは親元で教育をしたいと強く望んでいる。島で学びたいと思っている生徒がおり、保護者や地域住民も伊良部高校の存続を強く</p>	<p>【案】P9 19行～</p> <p>離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。</p> <p>その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。</p> <p>個別具体的な再編統合については、実施計画策定で検討します。</p>

		望んでいる。 島の人口減が進む中で児童生徒数の数も減ってきているが「離島の離島」の特殊時事情も十分考慮してもらいたい。少なくとも伊良部大橋が完成するまでは、伊良部島唯一の高校として伊良部高校の存続を強く要望します。	
26	P14 ④募集停止及び学校の統廃合	<p>県立高等学校の編成整備にあたっては、それぞれの地域の実情を十分考慮して頂きたい。特に伊良部高校は「離島の離島」にあり、その特殊時事情を考慮してほしい。</p> <p>伊良部高校が設立される以前は、島の中学生のほとんどが下宿をしながら宮古本島の高校に通学していた。保護者の経済的負担や精神的負担が非常に大きく、教育の機会均等の実現と地域文化の振興にとって高校設置が不可欠であるとの理解が深まり、誘致運動が進められた。</p> <p>伊良部高校は生徒数は少ないが、生徒一人びとりに目が行き届いた教育が行われている。教師と生徒の距離が近く、良い教育ができていると思う。</p> <p>保護者としては、高校までは伊良部島で教育したいと強く望んでおり、地域社会も伊良部高校の存続を強く望んでいる。伊良部大橋が完成し、状況が変化するまでは是非伊良部高校の存続を強くお願いしたい。</p>	<p>【案】P9 19行～</p> <p>離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。</p> <p>その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。</p> <p>個別具体的な再編統合については、実施計画策定で検討します。</p>
27	P14 ④募集停止及び学校の統廃合 12行～14行目 「一学級以上の～を行います。」	<p>「・・・過半数割れが2年連続して生じた場合は3年目からその学級を減じ、これに係る募集停止を行います。」とあるが、過疎・僻地地域においては、年度により生徒数の増減が大きく、それに伴う志望生徒数の増減、そしてスポーツや文化活動の活躍、特色ある学校の取組による増加、そして年度による希望校の偏在もあることから、2年連続の過半数割れのみで判断するには地域の実情を的確に捉えるには厳しいものがあると考えます。</p> <p>以上の観点から、断定的ではなく地域の実情を考慮して次のように</p>	<p>【案】P9 19行～</p> <p>離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。</p> <p>その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。</p>

		<p>弾力的な表現に修正して頂きたい。</p> <p>「・・・過半数割れが数年にわたり顕著に認められる場合には、その学級に係る募集の見直しを検討します。</p>	<p>地域の実情を捉えるには、地域との対話を重ね、理解を得ることが重要であると考えております。</p>
28	<p>P14</p> <p>④募集停止及び学校の統合 廃合 17行目</p>	<p>「さらに、小規模校の学校において、将来にわたって生徒数が増加する見通した立たないと見込まれる場合には、複数の学校間での再編統合も検討します。」の部分。</p> <p>p9・20行の「また、離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校作りを取り組むことが必要になります。」の部分を受けて、「さらに、離島北部地域に多い小規模校の学校においては、地域社会への理解を求めながら将来にわたって生徒数が増加する見通した立たないと見込まれる場合には、複数の学校間での再編統合も検討します。」とした方がよいのではないか。</p> <p>※p 2に「離島・北部地域に小規模校が点在するなどばらつきがみられます」の表現有り。</p>	<p>【案】P9 19行～</p> <p>離島や北部等については、高等学校が地域文化の拠点の一つであったり、高校生の存在が地域の活力を引き出している場合が多いため、小規模であっても生徒や地域の実情に即し地域と連携を図りながら特色ある学校づくりに取り組むことが必要になります。</p> <p>その上で、収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討します。</p> <p>地域の実情を捉えるには、地域との対話を重ね理解を得ることが重要であると考えております。</p>
29	<p>P14</p> <p>⑤一学級当たりの募集定員の在り方</p>	<p>1学級あたりの募集定員について、ひとクラス40名とありますが、昔と異なり、現代の高校生の体格が大型化しており、かつ授業で使用する教科書や参考書の数も増え、机も以前のサイズでは小さくて使用し難い。授業を見学した際に、教室が狭く、果たして40名学級が適正か疑問に感じる所です。</p> <p>※緊急時に後ろの席の生徒はスムーズに席から退席できないのではないかと心配にすらなる状況です。</p> <p>教室のサイズは簡単に大きくする事はできないので、クラスの定員で調整して頂けたら幸いです。</p>	<p>特色ある新しい学校づくりや、県の財政状況を判断して実施計画で検討します。</p>
30	<p>P14</p> <p>⑤一学級当たりの募集定員の在り方</p>	<p>定時制等における一学級当たりの定義について、かつての勤労学生ではなく多様化した生徒に対応していくためには、定数の検討が必要</p>	<p>特色ある新しい学校づくりや、県の財政状況を判断して実施計画で検討します。</p>

		である。もしくは職員定数を増加する。	
31	P14 ⑦高等学校（学科）の適 正な配置 ○専門学科	<p>技術の高度化・・・上級学級への進学ニーズに対応すること も視野に入れた教育課程の編成も進めます。</p> <p>教育課程の編成は学校長にあるので、下線部分は削除か、地教法 で教育委員会は、教育課程の教育委員会規則を設けることができ るので、教育課程の教育委員会規則の制定を進めます、に 変える。</p>	<p>教育課程の編成も進めます。</p> <p>→ 教育課程の編成も必要になります。</p> <p>に修正します。</p>
32	P15 中高一貫教育校 6行～8行目	<p>沖縄インターナショナル中等教育学校設置については、その必要性 や県の財政状況、卒業後の進路についての明確な優位性が不明瞭であ ることから、次期編成整備計画期間内での実現はきわめて厳しいので はないか（削除したほうが良い）。</p> <p>那覇地区の中等教育学校設置は促進すべきと考える。本県のさらなる 発展のためには、優秀な官僚を育成することが必要である。そのた めには、旧帝国大学を含む難関大学への進学者を県内で育てる必要が ある。</p> <p>新設が困難であれば、那覇市内の高校を中等教育学校に変えてでも 早期に設置したほうが良いと考える（県の将来を安心して託せる人材 の地元での基礎づくり）。（ただし、地域バランスのとれた県の発展 を考えた場合、不均等さがより拡大しないか懸念される面もあるが）</p>	<p>【案】 P15 6行～8行目</p> <p>沖縄インターナショナル中等教育学校設置と那覇地区の中等教育学校 設置については、今後のニーズを踏まえた上で設置の有無を含め、本計 画で引き続き検討することとします。</p>
33	P16 Ⅲ新しいタイプの学校	<p>中学校の問題行動の発生に過卒生との癒着がある。過卒生が高校進 学への目標作りを支援する施設を是非検討していただきたい。</p> <p>子ども達は学びたがっているものです。県立からの働きかけには、 全面的に対応していきます。</p>	<p>【案】 P16 11行～16行目</p> <p>本県刑法犯少年における中学生の占める割合は全国平均と比較して高 く（平成21年 全国40.3% 沖縄県61.1%）、これらの生徒が高校入試 を不受験あるいは失敗することで、将来の希望を失うことがないよう、 学習の遅滞のある生徒への学習支援や、高等学校進学への目標作りを支 援する学校（施設）をつくることを検討します。</p> <p>これらの課題は、本県の大きな教育課題であり、将来を担う人材の育 成の観点からも、その課題解決に向けて社会全体の問題として捉える必 要があります。</p>

34	P16 Ⅲ 新しいタイプの学校	<p>本県の中学生の問題行動や遊び型非行と不登校の実態や高校における中途退学者の実態から新しいタイプの学校（施設）をつくり、様々な課題を抱えた生徒を支援することは大いに賛成できます。一日も早く、新しいタイプの学校（施設）ができることを願っています。</p>	<p>【案】P16 11行～16行目</p> <p>本県刑法犯少年における中学生の占める割合は全国平均と比較して高く（平成21年 全国40.3% 沖縄県61.1%）、これらの生徒が高校入試を不受験あるいは失敗することで、将来の希望を失うことがないように、学習の遅滞のある生徒への学習支援や、高等学校進学への目標作りを支援する学校（施設）をつくることを検討します。</p> <p>これらの課題は、本県の大きな教育課題であり、将来を担う人材の育成の観点からも、その課題解決に向けて社会全体の問題として捉える必要があります。</p>
35	P16 Ⅲ 新しいタイプの学校	<p>セーフティネット的な学校の設置は必要だと思います。残念ながら心因性による不登校や中途退学者が本校にもいます。様々な対策を実施しても、不登校や進路変更等による退学者が毎年出てきます。現在の全日制課程の高校では限界があります。</p> <p>セーフティネット的な学校の場合は、在籍可能な年数を増やす・単位制とする・高卒認定試験合格を単位として認める等柔軟な教育システムが必要だと考えます。</p> <p>定時制・通信制課程の再編成の中で、「いつでも転編入ができ」とありますが、可能でしょうか。</p> <p>また、「定時制課程多部制の学校を一校づくり」とあります。那覇市には泊高校（午前部、夜間部）があり、定時制課程多部制の学校は中部地区に設置するべきだと考えます。</p> <p>中部地区にも定時制課程が設置された高校がありますが、普通科の定時制課程がありません。中部地区の全日制課程普通科を中途退学した生徒の受け皿が那覇市の泊高校だけです。</p> <p>「高校中退等の課題を抱えた生徒を受け入れ」る学校はどうしても必要です。高校中退後、もう一度やり直したいと思う生徒は多くいます。しかし、全日制課程の学校でやり直すことには、難しい課題があります。生徒の年齢幅の大きい定時制課程が必要です。</p>	<p>【案】P16 20行目～</p> <p>意見も参考にしながら、個別具体的な計画は、実施計画策定で検討します。</p>

36	P16 Ⅲ 新しいタイプの学校 11行～14行目 「さらに、～検討します。」	その構想には賛成です。八重瀬町の暴力事件は高校に進学できなかった無職あるいは有職少年らが多く関わっています。 そのような生徒を受け入れ、希望あふれる将来の道が開かれるような施設づくりを是非実現してください。	個別具体的な計画は、実施計画策定で検討します。
37	P16 Ⅲ 新しいタイプの学校 11行～14行目 「さらに、～検討します。」	具体的なイメージが湧かない。中学校、高等学校とは別の、学習に遅滞のある生徒への学習支援や高校進学への目標づくりを支援する学校（施設）とはどんなものか？（県立の学習塾のようなもの？）	個別具体的な計画は、実施計画策定で検討します。
38	P16 Ⅲ 新しいタイプの学校 15行目 「これらの課題は～必要があります。」	社会全体の問題として 今までは全日制と定時制との併設校としての良い点もあったかと思うが、これからの生徒の実態と多様化に対応していくためには施設設備（ホームルーム教室等）の専用化や独立校として検討していただきたい。	個別具体的な計画は、実施計画策定で検討します。
39	P16 表2 〔不登校となったきっかけと考えられる状況〕	極度の不安や緊張・無気力等が43.0%となっている理由（原因）の解明が必要ではないか。	不登校となったきっかけとしては、学校生活に起因する問題、家庭生活に起因する問題や本人に起因する問題等さまざまな原因が考えられます。 沖縄県では、全ての高校で教育相談の充実を図っており、不登校を未然に防ぐ取り組みを行っております。
40	P16 Ⅲ 新しいタイプの学校 P17 1 セーフティネット的な学校の設置	沖縄県の小中学生に見られる諸問題の解決については義務制等との連携を明記してほしい。 特に「遊び型非行生徒」の割合が高い背景には、保護者の経済的困窮のためのダブルワークによる「夜間の親不在」や地域における「すべての子どもたちに対する居場所」づくりなど、経済や福祉の分野も視野に入れた社会全体のとりくみの強化も必要。	中学校で不登校であった生徒が高校入学を契機に変容するケースは多く、学校には生徒の学ぼうとする意欲を大切にしながら個々に応じたきめ細かな対応が必要であると考えます。 現在、生徒の状況に合わせて学び直しの取組を行っている学校もあり、自らの能力が十分に発揮できない多様な生徒に対して、きめの細かい支援体制づくりが図られております。

		また、「将来を担う人材の育成」という観点を打ち出すのであれば、「新しいタイプの学校」を卒業する子どもたちへの社会的偏見（就職活動の際の差別）につながらぬよう、県民（特に採用側）に広く人権感覚の啓発を同時に行う必要がある。これは「セーフティネット的な学校」においても同様である。	また、小中学校の教育改善については、幼・小・中・高の各学年で身につけるべき内容を確実に定着させ、「学年のたすき」をつなぐ取組の充実を図ります。
41	P17 1 セーフティネット的な学校の設置	セーフティネット的な学校の設置について、生徒数の減少で再編統合が編成整備の基本的な方向性だと思いますが、それとの整合性はどのようにでしょうか。 既存の枠内での対応策の有無について検討が必要ではないかと思いますが。	既存の学校を再編することを計画しております。
42	P16 新しいタイプ ⁹ の学校 13行～ 14行 と P17 1 セーフティネット的な学校の設置 2 定時制・通信制課程の再編成	学習遅滞のある生徒の学習支援や高等学校進学への目標づくりを支援する学校の設置を検討とあるが、それは、定時制通信制高校の再編を行うことによって「学び直し」や心因性や発達障害による不適應等（不登校含む）の多様な学習ニーズに対応できる新たな高校（セーフティネット的な学校）を単独で設置すると考えていいのでしょうか。 つまり、定通制のある高校の再編整備とリンクしていると解釈。	既存の学校を再編することを計画しております。 個別具体的な計画は、実施計画策定で検討します。
43	P16～P17 Ⅲ 新しいタイプの学校 1 セーフティネット的な学校の設置 P17 1行目 学習指導要領に基づいた「学び直し」を具現化すること～	無職少年の多さが社会の大きな課題であると思います。それらの少年達に対する「学び直し」のチャンスを与える高校が欲しい。 また、不登校生徒の増加は大きな課題です。それらの生徒に対応する高校教育の在り方も創造して欲しい。 高校教育の中で青少年が社会に適応し、人生の目標をつくり、努	【案】P9 11行～16行目 すべての生徒に、基礎・基本の定着を図ることで、さらに上級学校への進学に必要な教育を求める者、就職等に必要な専門教育を求める者、多様な学習スタイルや学び直しを必要とする者に十分対応できる教育環境を整備することが求められます。

		力、成長できるしくみがあって欲しい。	また、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力や態度の育成と、専門的な知識・技能を身につけることといった多様な希望にも応えるために、キャリア教育・職業教育の展開を図り、多様な進路実現が可能になる高校づくりを進めることが必要になります。
44	P17 1 セーフティネット的な学校の設置	<p>沖縄県にセーフティネット的な学校を導入することに対しては、もっと慎重な議論を必要とします。現状の泊高校もしくは通信制の拡充によって、可能となるのではないのでしょうか。名称も「セーフティネット」を全面に出すと、生徒も集まらないのではと考えます。</p> <p>「高校編成整備計画」で「新しい学校」にこだわる時代はもう終演しているのではないのでしょうか。現在の学校の課題・問題点に目を配り、学校側・地域・保護者の声を聞き、どういう高校が求められているのかを考える時期にあると思います。</p> <p>セーフティネット的な学校の設置に関して、学習支援が必要な生徒には、場合によっては小学校低学年のレベルから基礎の定着を図ることは十分理解できる。しかし、高校教育としてのレベルまで引き上げることができるかが疑問である。そのレベルに達しないままの卒業となると、他の高校との平等性・整合性は気になる。また、進学をめざす生徒には、それに対応した教育課程を置くとしているが、一つの学校の中に学習支援が必要な生徒との学力の差があり過ぎて、あまりうまく行くとは思えない。</p>	<p>名称については再検討します。</p> <p>中学までの基礎学力が定着していない者、コミュニケーション能力に欠ける者、生徒指導（服装や頭髪等）に課題がある者、不登校経験者等、自らの能力が十分に発揮できない多様な生徒に対して、弾力的な教育課程やきめの細かい支援を組織的に行い、生きる力を身につけさせるための新しいタイプの学校について検討していく必要があります。</p> <p>不登校が深化したり、発達障害等の生徒に対する生徒へ対応するには、本人のペースに合わせた柔軟な教育課程編成が必要になります。そのためには弾力的な運営が可能になる単位制を導入し、既存の高校を再編する必要があると考えます。</p> <p>学校の教育課程や具体的支援の在り方についてさらに検討を重ね、生徒や保護者及び地域に納得できる学校づくりに努めます。</p>
45	P17 1 セーフティネット的な学校の設置	<p>セーフティネット的な学校の定義やねらいをしっかりと固めてほしい。「心因性や発達障害」による不応等々の生徒に対応できる学校をめざすなら「また、高校を卒業して～生活指導の充実を図る学校を設置します。」の部分は削除すべきである。不登校、不応等の生徒に「マナーやルールを徹底的に指導しようとするれば、ますます不登校、不応となるばかりである。学校設置のねらい（基本的な方向性）がぶれると（相反する二つのことを求めると）指導に当たる職員も戸惑うことになるだろう。</p>	<p>個々にあった指導を充実させることで、対応できると考えます。</p> <p>指導の在り方はカウンセリングリングマインドを根底に行うべきだと考えます。</p> <p>【案】P5 脚注1</p> <p>進級に必要な単位を特に定めず、所定の単位を修得すれば卒業できる、学年制によらない制度。</p>

		<p>私たちのこれまでの指導の在り方はカウンセリングマインドではなかったのか。遅刻して学校に来た生徒を叱るのか、よく来たね、というのか、その違いは大きい。</p> <p>また「全日制単位制」ということばがいきなり出てきたが、何の説明もない。なぜ、全日制単位制なのか、説明が必要ではないか。</p>	<p>全日制のニーズが高いことと、在籍可能な年数を増やすことができること・学校外での試験合格等あるいは資格取得を単位として認める等柔軟な教育システムが必要だと考えます。</p> <p>また、教科学習においても生徒の多様な学びのニーズに対応ができることから判断しました。</p>
46	<p>P17～P18</p> <p>1 セーフティネット的な学校の設置</p> <p>2 定時制・通信制課程の再編成</p>	<p>今後とても必要となってくるシステムだと考えます。それぞれの地区に1校ほど設置できれば理想です。北部は農林高校の定時制の役割と機能を拡大強化していく方向で対応できるのではないのでしょうか。</p> <p>高校へも入学できない、仕事にも就けない中卒者がどの地域でも問題になっていることだと思います。既存の高校にその責任を負わせるのではなく、きめ細やかに対応できるシステムを持つ新タイプの高校の設置は必要です。</p>	<p>ご意見を参考にしながら、個別具体的な計画は実施計画策定で検討します。</p>
47	<p>P18</p> <p>2 定時制・通信制課程の再編成</p> <p>4行から5行目</p>	<p>現在、本校で学ぶ生徒の中、3割が就労やアルバイトをしている。そのような生徒には定時制は有効な学習機会である。</p> <p>課題は、7割の生徒である。全日制に行けない生徒がいること、全日制に空き定員があることを考えると就学生徒を通信制高校に学ばせ、残りを全日制に吸収することも考えてよい。</p> <p>もちろん、そのためには学び直しの機会を保障することが大切になる。</p> <p>前述の改革ができないならば、定時制商業科を定時制普通科の学校にしたほうがよい。転編入がやりやすく教育の機会を保障することができるからである。</p> <p>定時制多部制の学校が今後必要だということには賛成である。その理由は、現在の定時制課程においては、勤労生徒が3割程度しかいないからである。昼間の時間をもてあましている生徒が多いので、午前</p>	<p>ご意見を参考にしながら、個別具体的な計画は実施計画策定で検討します。</p>

	6行目以降	<p>部や午後部でも授業を受けられるようにすれば3ヵ年で卒業できると うことで退学者も減る可能性が出てくる。</p> <p>「高校中退等の課題を抱えた生徒を受け入れます」とあるが、この ような表現だと高校中退者の受け入れのための学校というイメージに なる。しかし、現在、本校定時制課程は、高校入試の志願倍率が1.5 倍もあり、全日制課程よりニーズが高い。中退して本校に編入学を望 む生徒は数名しかいない状況である。表現の修正を求めたい。</p> <p>これ以降の文章は、この項の見出しの内容（定時制・通信制課程の 再編成）と関わりがないのではないか。</p> <p>「遊び型非行で中学校に通えない生徒」は中学に通えてない段階で あり、高等学校の「定時制・通信制課程の再編成」とどういった関わり があるのか、意味が分からない。</p> <p>「遊び型非行で中学校に通えない生徒」への対応は、別の項目で記 述すべきではないか。</p> <p>「高等学校へ進学する意欲や意志を育てる」のは義務教育段階での 対応であって、高等学校は、彼らが高校に進学した後の対応を考える べきである。</p>	<p>【素案】P9 4 魅力ある学校づくり（再編整備の必要性） 2つ目の○ すべての生徒に、基礎・基本の定着を図ることで、さらに上級学校へ の進学に必要な教育を求める者、就職等に必要な専門教育を求める者、 多様な学習スタイルや学び直しを必要とする者に十分対応できる教育環 境を整備することが求められます。</p> <p>中学校で不登校だった生徒が高校入学を契機に変容するケースは多 く、すべての学校に生徒の学ぼうとする意欲を大切にしながら個々に応 じたきめ細かな対応が必要であると考えます。</p> <p>学校の教育課程や具体的支援の在り方についてさらに検討を重ね、生 徒や保護者及び地域に納得できる学校づくりに努めます。</p> <p>また、小中学校の教育改善については、幼・小・中・高の各学年で身 につけるべき内容を確実に定着させ、「学年のたすき」をつなぐ取組の 充実を図ります。</p>
48	P18 2 定時制・通信制課程 の再編成 6行目以降	<p>定時制・通信制課程の再編成の中で、遊び型非行で<u>中学校に通えな い生徒に</u>、と記述されています。</p> <p>本市の管内中学校においても、遊び型非行が増加傾向にあり、当該 中学校では対応に苦慮している状況にあります。是非、学習支援や高 等学校進学への目標づくりを支援できる学校（施設）を「編成整備計 画」で離島を含めたシステムづくりをお願い致します。</p>	<p>個別具体的な計画は、実施計画策定で検討します。</p>
49	P19 IV 学科の配置と在り方	<p>各学科でのキャリア教育の充実</p> <p>1 中学校段階でまだ自分の進路がはっきりしないため、普通科志向</p>	<p>【案】P9 14行～16行目 生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力や態度の育成と、専門</p>

		<p>の強い中学生の指導</p> <p>2 中高を連携したキャリア教育の方法の開発（早期進路決定のため）</p>	<p>的な知識・技能を身につけることといった多様な希望にも応えるために、キャリア教育・職業教育の展開を図り、多様な進路実現が可能になる高校づくりを進めることが必要になります。</p>
50	P19 IV 学科の配置と在り方	<p>普通科、理数科、英語科、体育・芸術科、環境科そして農業、工業、商業、水産、家庭科、情報、福祉、総合学科など、様々な進路を揃え、バラエティな進路を選択できるようになっているが、その目的通りに進学・就職を含む進路決定がなされているのかが疑問です。</p> <p>それは教える側ではなく、教わる生徒や保護者自身の考え方から変えなければ絵に描いた餅になってしまうと思います。</p> <p>これらの高校を成功させる為には、1にも2にも保護者の教育が不可欠であり、生徒が万全の態勢で高校へ通い、専門教育を受ける基本規則に則った教態勢を家庭で作らせる必要があると思います。それぞれの高校に進学したらまず最初に生徒、そして保護者の教育から始める事が先決であろうと思われま。</p> <p>各高校のPTA総会や進路学習会でしっかりと保護者教育を行わせるよう、教育行政の強力な指導が必要だと考えます。</p> <p>専門学校に行かずとも、高校を卒業した時点で社会人としての第一歩を歩めるよう、または希望する進路に進む専門的学力を身につけられるように教育界、保護者、生徒が一致団結して頑張りたいものです。</p>	<p>ご意見を参考にして、実施計画策定に活かします。</p>
51	P19 IV 学科の配置と在り方 (3) 英語科・国際科等	<p>英語科関連の学科は、この数年ほとんどの学校が定員割れを起こしている。この状況は、現時点での収容定員数が中学校生の希望者より多いと推察される。収容定員数を減じる必要があるのではないか。その中で「一層の充実を図ります。」は、収容定員数を減じるとき矛盾が生じてこないか。</p>	<p>収容定員数については、編成整備ではなく入試定数を決定する段階での判断だと考えます。</p> <p>「一層の充実を図ります。」は、学科の教育内容及び目標をさしており、矛盾はないものと考えます。</p>
52	P20 2 職業教育を主とする 専門学科	<p>本来、職業高校が育成すべき人材は「即戦力になる技術者」であると考え。生徒の中には、さらに高度な知識を習得するための進路選択をする者もいるので、その対応を各学校が図るのは当然のことだ</p>	<p>【案】P9 9行～14行目</p> <p>すべての生徒に、基礎・基本の定着を図ることで、さらに上級学校への進学に必要な教育を求める者、就職等に必要の専門教育を求める者、多様な学習スタイルや学び直しを必要とする者に十分対応できる教育環</p>

		<p>が、あまりに「上級学校への進学」を前面に押し出すと、前述した商業のようになりかねない。多くの生徒は「卒業したら就職したい」と思っているのではなかろうか。</p> <p>不景気で、ますます厳しい状況にある沖縄の産業（特に第1次・2次産業）を担う若者を、「夢を持った技術者」に育てるために、学科の配置は実際の産業バランスにシンクロさせる必要があり、定員に満たない（人気がない）ことを理由に廃科などをするべきではない。</p> <p>また、授業料無償化になっても家庭の経済状況が苦しい生徒が多いことから、通学費などの私費負担を軽減するためにも、各地域にバランスよく配置することで経済的理由での退学者や未就学の若者を減らせるのではないか。</p>	<p>境を整備することが求められます。</p> <p>また、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力や態度の育成と、専門的な知識・技能を身につけることといった多様な希望にも応えるために、キャリア教育・職業教育の展開を図り、多様な進路実現が可能になる高校づくりを進めることが必要になります。</p>
53	<p>P20</p> <p>2 職業教育を主とする 専門学科</p> <p>(1) 農業に関する学科</p> <p>20行目</p> <p>24行目</p> <p>27行目</p>	<p>農業教育では、第一次産業の生産から加工、販売までの第六次産業化やさらには食育を～</p> <p>下線部追加</p> <p>未来社会（安全・安心・安定供給の食糧問題、住みよい持続型の環境、社会維持機能等）において農業の果たす役割や必要性が理解できる人材を育成する。 を追加</p> <p>こうした状況を踏まえ「生物生産」に関する学科を基本として～ 「生物生産」に関する学科 → 生物生産にこだわる必要はないと思う → 「農業の各分野」に関する学科を基本として～ (理由) 農業分野においては、生産と経営、加工、流通などに関する知識と技術の習得が目標である。</p>	<p>ご意見を参考に</p> <p>第六次産業化への対応は、これからの農業教育に不可欠であるため、27～28行目の「地域農業の実態の即した、農業の第六次産業化や技術の高度化・精密化に対応～」へ挿入いたします。</p> <p>農業の果たす役割や必要性を理解できる人材の育成は、学習指導要領に明記されていますので、ここでは、挿入する必要はないかと考えます。</p> <p>ご意見を参考に、『「生物生産」に関する学科を基本として～』を削除いたします。</p> <p><変更></p> <p>『こうした状況踏まえ、「生物生産」に関する学科を基本とし、地域産業の実態に即した技術の高度化や精密化に対応し、新たな時代の持続可能な農業について、幅広く学習できる学科、コースの設置及び改編を進めます。』</p>

		<p>農業の各分野とは</p> <p>①農業の生産と食品産業</p> <p>②バイオテクノロジーの利用</p> <p>③国土の環境の保全</p> <p>④農業生産物や地域資源を活用した対人サービス</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>『地域産業の実態に即した、農業の第六次産業化や技術の高度化・精密化に対応し、新たな時代の持続可能な農業について、幅広く学習できる学科、コースの設置及び改編を進めます。』</p>
54	<p>P20</p> <p>2 職業教育を主とする専門学科</p> <p>(2) 工業に関する学科</p> <p>5行～7行目</p> <p>「また、～求められています。」</p>	<p>また、国際化、グローバル化の社会において、即戦力となる技能や世界基準の国家資格取得の重点化を図ること、技術者倫理をもった地域産業の担い手を育成すること、さらに、上級学校への進学も念頭においた教育が求められています。</p> <p>→ また、国際化、グローバル化の社会において、即戦力となる技能や世界基準の国家資格取得の重点化を図るとともに、<u>そのような社会で活躍できるような語学力を高めること</u>、技術者倫理をもった地域産業の担い手を育成すること、さらに、上級学校への進学も念頭においた教育が求められています。</p>	<p>世界基準の国家資格取得の変化という文面に「語学力を高める」ことが含まれると認識しております。</p>
55	<p>P20</p> <p>2 職業教育を主とする専門学科</p> <p>(2) 工業に関する学科</p>	<p>20ページ (2) 工業に関する学科の項の構想に添って計画を進めて頂きたいと思えます。</p> <p>南部工業高等学校PTA会長（保護者）としての立場と致しましては、長年に渡る指導者の御尽力をいただき、ここに、子ども達が築き上げた実績と伝統ある母校を永続的克つ、より発展的長期ビジョンでの改革で単独存続を切に望むところであります。</p> <p>5ページの一番下の項での農業・水産・工業・商業の複数専門学科に関しても、業態の違う中での指導のあり方に問題有り。北部地区の国立高専レベルの県立高専を南部地区、南部工業を基盤に開設し企業が求める即戦力に成る技師（匠）を育成する。併せてそのビジョンに</p>	<p>【案】 P5 30行～31行目</p> <p>南部総合実業高校については、地域関係団体等の理解を得て、専門高校のあり方等も含め次期計画で検討します。</p> <p>個別具体的な計画は、実施計画策定で検討します。</p>

		<p>添って技術系工業系企業の誘致を図り、子ども達が未来の夢、希望、安心が持てる社会基盤の構築が重要ではないかと思ひます。</p> <p>さて、今回の基本方向（案）に対しての意見のあり方にも疑問を呈します。専任で関わるが出来ないPTA役員として、意見書の〆切日まで時間があまりにも短く、文書の解説解析に限界が有り、素案作成の前に単P・地区P連・地区行政機関を交え意見交換をする場が必要ではないかと思ひます。今回は保護者としての思ひを重々考慮頂きたく未来を担う子ども達の為にもご尽力を切に願ひます。</p> <p>子ども達の将来の夢はと聞くと正社員に成ることと思ひ事事態が異常で有り、経済のグローバル化の中で企業経営も厳しい状況を理解しつつも、今一度、真剣に考える時と提起して置きたいと思ひます。</p>	
56	P21 (5) 家庭に関する学科	<p>なぜその学科が必要なのかの説明が他と比べて、明瞭でないように思ひます。</p> <p>また、他は「～の充実を図る」とありますが、ここは「設置は必要であると思ひ」と、少々トーンダウンしている様に思ひます。</p>	<p>ご意見を参考に、文書を下記のように書き換えます。</p> <p>『これらからも、生活の質の向上と社会の発展の図る創造的な能力と実践的な態度で、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決していくノウハウを学ぶ学科の設置は必要であると思ひます。』</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>『これらからも、生活の質の向上と社会の発展の図る創造的な能力と実践的な態度で、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決していくノウハウを学ぶ学科の充実を図る』</p>
57	P22 1行目 (6) 情報に関する学科	<p>即戦力となる人材を作るには、上級学校へタイアップし、1週間から2週間の時間帯で、各々専門分野の授業を受けさせ、スケールアップして国家資格取得の重要性を認識してもらおう。</p> <p>将来自分の職業に必要な専門技術は何なのかを勉強する。</p>	<p>本県には「情報に関する学科」として、名護商工高校の総合情報科、美来工科高校のITシステム科、コンピュータデザイン科が設置されています。また、工業高校、商業高校等においてもそれぞれの教科の専門性に対応した情報教育が行われています。</p> <p>御意見を参考にしながら専門高校における情報教育の充実について検討してまいります。</p>
58	P22		

	(7) 福祉に関する学科	<p>福祉関係の人材育成は、高齢化の進展で社会的ニーズが高まっております。職業として福祉関係の仕事を目指す高校生も増えており、資格の取れる福祉関係の学科は、大変魅力があり、有望であると思います。</p> <p>県においてもその必要性を認めており、特に北部地域は、福祉関係の施設が多く、連携もし易く社会的ニーズと小規模高校の特色づくりに適った学科であると思います。</p> <p>是非、北部地域(本部高校にある福祉コースを将来福祉学科にもつていけるように町内関係機関で構想を描いている。)に福祉関係の学科を新設していただきたい。</p>	<p>既存の高校・学科の魅力や特色を考慮し、また生徒・保護者・地域のニーズを再編の参考にしたいと考えます。</p> <p>個別具体的な計画については、実施計画策定で検討します。</p>
59	P22 (7) 福祉に関する学科	<p>アンケートからもわかるように県民の福祉へのニーズが高まる中、今後、福祉に関する学科は充実強化していくべきだと考えますが、学科が全県で2校だけというのは少ないと思います。</p> <p>地域に住む高校生が、卒業後、即戦力として地域福祉(介護業務等)に携わることは、あらゆる面で有効だと考えます。現在北部地域には本部高校の福祉コースがありますが、そのコースを、北部の福祉教育の拠点校として、将来的な学科構想まで持っていくことを考えてほしい。(町当局も含めて学習会を実施し、構想を描いている)</p>	<p>既存の高校・学科の魅力や特色を考慮し、また生徒・保護者・地域のニーズを再編の参考にしたいと考えます。</p> <p>個別具体的な計画については、実施計画策定で検討します。</p>
60	P22 V 専攻科 下から2行目	<p>連続した教育課程の編成をするなど →連続した教育課程を編成するなど 誤植ではありませんか?</p>	<p>指摘のとおり修正します。</p>
	その他の意見	<p>編成整備計画がどのような手順でどんなチームでどのように決定されていくのか一般の職員、県民には見えにくい部分があります。</p> <p>第1段階の基本方向の策定までの経緯は別資料で示されていますでしたが、第2段階の具体的実施計画はまだよくわかりません(私が見てないかも知れませんが)可能であれば全体の簡易なフローチ</p>	<p>その他の意見については、県立高等学校編成整備の基本方向との関連が薄いので、回答は控えさせていただきます。</p>

ャートがつけられないでしょうか。

入試の学区設定について

編成整備計画とは直接の関連はないが、学校規模の適正化にも関わるので意見を出します。

授業料が無償となっているが、低迷する経済状況の中、家庭への圧迫は大きい。校納金を十分に支払いできない家庭も増えてきている。

現在の教育事務所ごとの受検校の設定や二次試験の全県一区は、通学に要するバス賃も家庭経済への負担となっている。地域の学校や新しい公共の観点から縮小できないか。

地域や民間の教育力を活用し、学校教育はスリム化を目指すべきである。

その他の意見については、県立高等学校編成整備の基本方向との関連が薄いので、回答は控えさせていただきます。

その他の意見については、県立高等学校編成整備の基本方向との関連が薄いので、回答は控えさせていただきます。